鹿追町長　吉田弘志

町民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

輝かしい新春を、皆さまとともに迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

今年が皆さまはもちろん、鹿追町にとっても一層の飛躍の年でありますよう心から願うものであります。

さて、東日本大震災から2年の歳月が経とうとしておりますが、被災地においては、いまだ、がれきの処理など様々な問題を抱えており、充分な復興支援が進んでいない状況にありますが、一日も早い復興を望むものであります。

また、昨年は夏から秋にかけて高温続きで各地で最高気温を更新したり、ゲリラ豪雨と言われる局地的豪雨などが原因で一部作物の品質に影響がありましたが、全体的には収量が上がり、農業生産額において史上最高額を記録するなど豊穣の年でありました。農業者の皆さまをはじめ関係機関の皆さまに改めて感謝申し上げます。

昨年12月には衆議院議員総選挙が執行され、新たな枠組みの中での政権運営がなされますが、いずれにしても大きな課題を抱えての国政運営になるのでないでしょうか。

そうした中、今年はさらなる環境に配慮した循環型社会の実現のための施策を展開してまいります。特に農業分野においては、現在の環境保全センター内にあるバイオガスプラントから発生する再生可能エネルギーの活用をはじめ、町内2基目となる瓜幕バイオガスプラントの本格稼動に向けた建設に入るなどクリーン農業の更なる確立に向けた取組みを進めます。観光面においても然別湖周辺の環境整備に着手し、訪れる人々に癒やしを感じてもらえる事業を推進します。また、鹿追町には学術的にも重要な自然の宝庫が存在しており、これらを保全しながら教育や観光に結びつけていくジオパークの認定を目指します。

福祉においては障がい者のための在宅福祉に力を注ぎ、引き続き医療と連携した高齢者専用住宅の建設に取組みます。また防災対策も積極的に推進してまいります。

一方、陸上自衛隊と歩む本町にとって隊員の減少は死活問題であり、これまで以上に駐屯地の維持拡充を求めてまいります。

デフレ状況が続いておりますが、しっかりした経済対策を行い、町民の皆さまが安心して暮らせる町づくりを今後も引き続き推進してまいります。

最後に今年も町民皆さまのご多幸を心よりご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。

鹿追町議会議長　埴渕賢治

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては新春を健やかに迎え、今年一年最良の年になりますよう心からご期待申し上げます。

さて、東日本を襲った大震災、中国や韓国との関係、ユーロ危機などの影響が続き、景気の低迷から抜け出せない昨今であり、経済活動の低迷が地方の我々の生活に影を落としており、地域の活性が課題となっております。

現在、鹿追町では地域力を活かしたまちづくりを推進しており、産業排出物を資源としたエネルギーの活用、さらに熱資源を利用した研究開発や廃棄物を利用した液肥の開発に取り組んでおります。

この実態が高く評価され、花と芝生の町づくり、家畜ふん尿のエネルギー活用、小中高一貫教育の推進などの取り組みに対して、鹿追町には道内外から多くの視察者が訪れております。

特に鹿追町環境保全センター（バイオガスプラント）は、昨年愛知県で開催された「全国過疎問題シンポジウム」で過疎地域自立促進連盟会長賞を受賞し「地域内の有機物資源を有効活用した安全安心な農畜産物の生産と環境負担の少ない循環型農業の確立」が高く評価されております。

さらに、鹿追町の学術的に重要な自然を生かしたジオパーク構想も新たな取り組みとして期待が寄せられております。

一方、議会は、町とそれぞれ独立して権限を行使し、適正な行政運営を図っておりますが、議会といたしましても、現在、住民主体の議会基本条例を行動指針として、議会報告会で住民との接する機会を増やし、住民からの相談を積極的に受け入れる方策を実施しており、今年も更なる町の発展と町民の生活向上に全力を傾注していく所存であります。

鹿追町が音更から分村して１００年を迎えるのも目前です。

今年も鹿追町にとっては飛躍の年であり、１００年を迎えるにあたり着実にすばらしい環境を次の世代に残せるよう願っております。

更に、議会は鹿追町を訪れる方々にも心地よい環境づくりに貢献することをお誓いし、皆さま方のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。